

## 秋田市食品ロス実態調査報告書

令和3年1月13日版

## 1 実施概要

■実施日時	令和2年11月19日（木）20日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ20名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。</li> <li>・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【11月19日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通り10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【11月20日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋）</li> <li>・調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約179.3kgとした。</li> </ul>

## 2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

## (1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

## (2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

### 3 調査結果

#### (1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 420.0kg、1 袋あたりの平均重量は約 4.2kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 86.9kg、②東部地区は 18 袋で 67.1kg、③西部地区は 11 袋で 58.7kg、④南部地区は 16 袋で 73.9 kg、⑤北部地区は 24 袋で 96.0 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 37.6 kg であった。

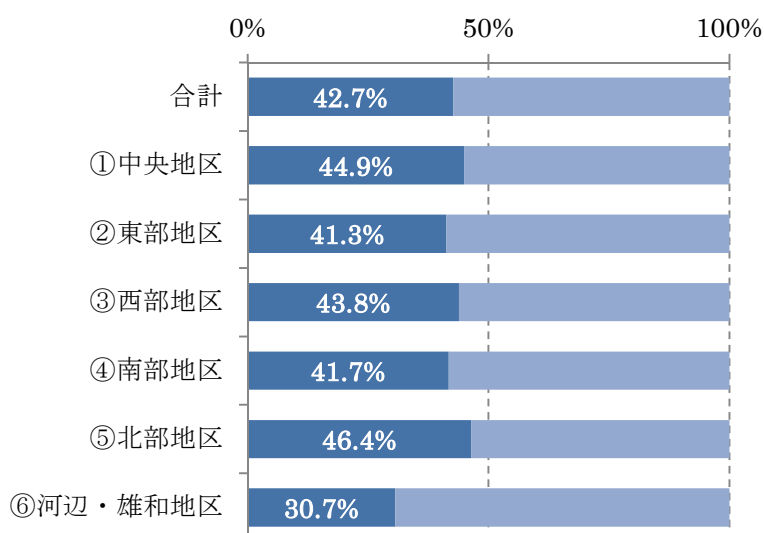
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	420.0	3350	4.2	33.5
① 中央地区	23	86.9	780	3.8	33.9
② 東部地区	18	67.1	580	3.7	32.2
③ 西部地区	11	58.7	345	5.3	31.4
④ 南部地区	16	73.9	525	4.6	32.8
⑤ 北部地区	24	96.0	790	4.0	32.9
⑥ 河辺・雄和地区	8	37.6	330	4.7	41.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 42.7%、地域別に見ると⑤北部地区が最も高く 46.4%、次いで①中央地区の 44.9%、③西部地区の 43.8%、④南部地区の 41.7%、②東部地区の 41.3%、⑥河辺・雄和地区の 30.7%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	420.04	179.29	42.7	57.3
①中央地区	87.09	39.13	44.9	55.1
②東部地区	66.58	27.48	41.3	58.7
③西部地区	60.53	26.54	43.8	56.2
④南部地区	71.88	30.00	41.7	58.3
⑤北部地区	95.76	44.43	46.4	53.6
⑥河辺・雄和地区	38.20	11.71	30.7	69.3

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

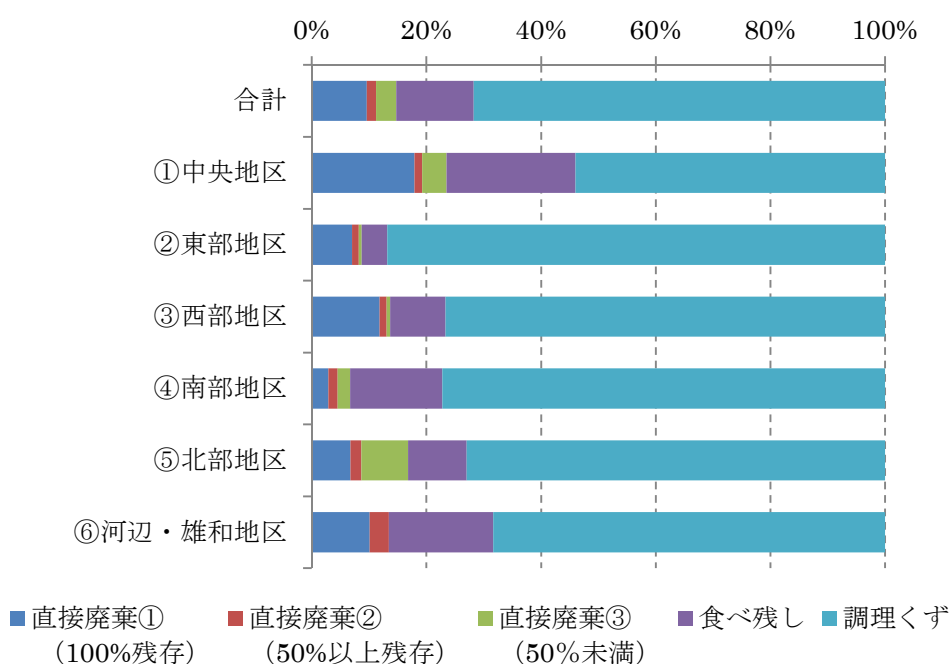
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では26.8%、地区別に見ると①中央地区が最も高く44.4%、次いで⑥河辺・雄和地区の29.3%、⑤北部地区の25.9%、③西部地区の22.7%、④南部地区の21.7%、②東部地区の11.8%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、①中央地区の食品ロスの割合は、②東部地区よりも32.6ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち9.1%を占めており、①中央地区で17.3%と高く、次いで③西部地区が11.5%、⑥河辺・雄和地区が9.4%、⑤北部地区が6.5%、②東部地区が6.3%、④南部地区が2.8%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では12.8%、①中央地区が21.7%と高く、次いで、⑥河辺・雄和地区の16.9%、②東部地区が最も低く4.0%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	26.8%	9.1%	1.5%	3.3%	12.8%
①中央地区	44.4%	17.3%	1.3%	4.1%	21.7%
②東部地区	11.8%	6.3%	1.1%	0.4%	4.0%
③西部地区	22.7%	11.5%	1.2%	0.6%	9.4%
④南部地区	21.7%	2.8%	1.6%	2.1%	15.3%
⑤北部地区	25.9%	6.5%	1.8%	7.8%	9.8%
⑥河辺・雄和地区	29.3%	9.4%	3.1%	0.0%	16.9%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

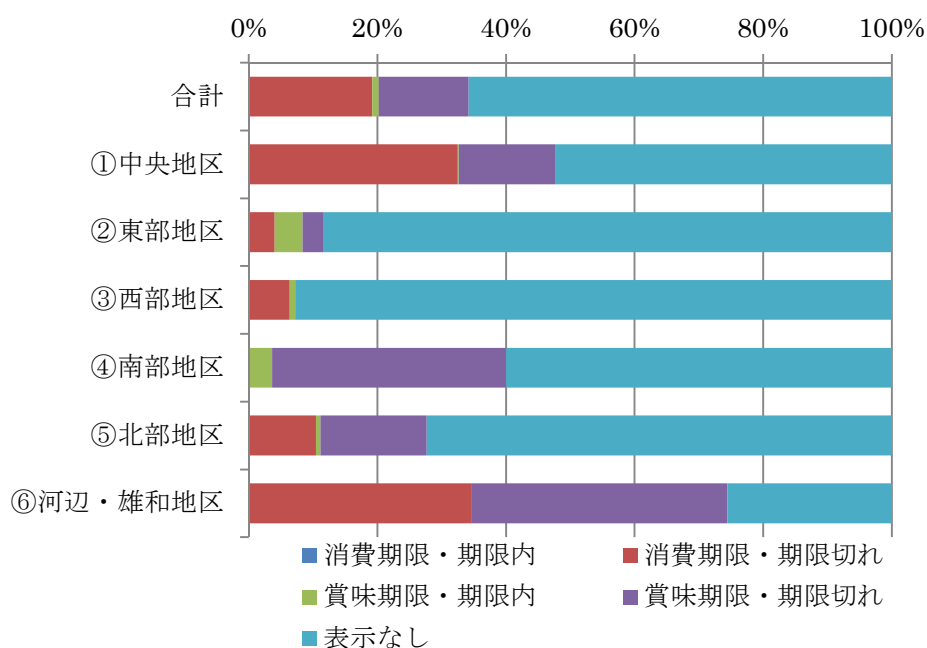
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く65.8%であり、消費期限の表示があったものは19.2%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは15.0%（期限内が1.0%、期限切れが14.0%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」となっており、⑥河辺・雄和地区が34.7%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち1.0%、地区別に見ると②東部地区が最も高く4.3%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	19.2%	1.0%	
①中央地区	0.0%	32.5%	0.1%	15.1%	52.3%
②東部地区	0.0%	4.0%	4.3%	3.2%	88.5%
③西部地区	0.0%	6.4%	0.8%	0.0%	92.8%
④南部地区	0.0%	0.0%	3.6%	36.4%	60.0%
⑤北部地区	0.0%	10.4%	0.7%	16.5%	72.3%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	34.7%	0.0%	39.7%	25.6%

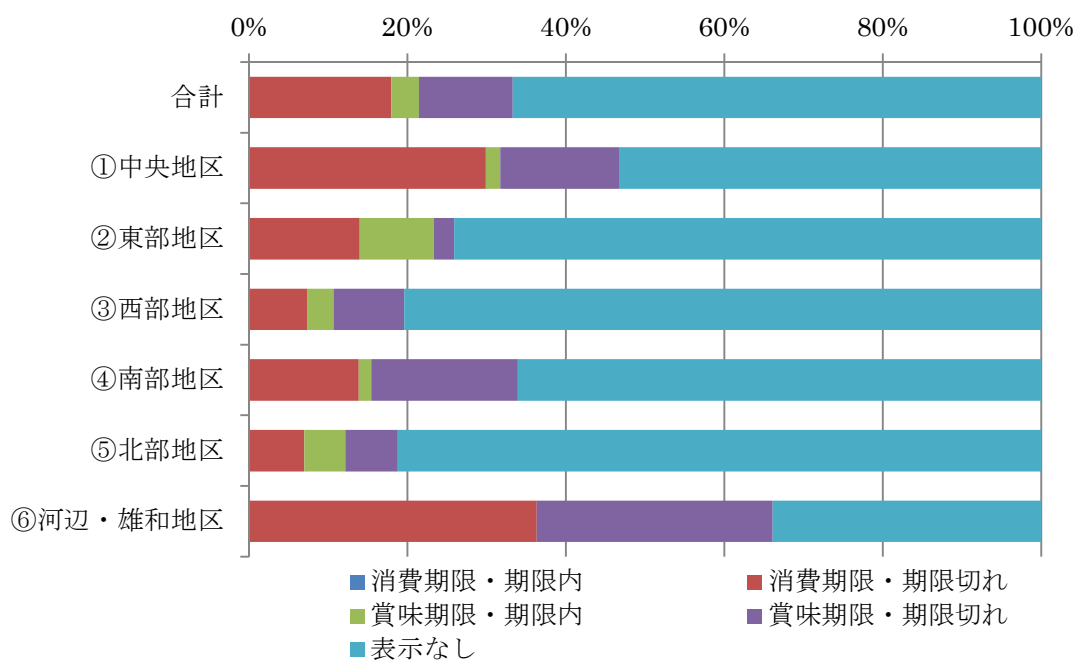
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く66.7%であり、消費期限の表示があったものは18.0%（全て期限切れ）、賞味期限の表示があったものは15.3%（期限内3.5%、期限切れ11.8%）となっている。

消費期限に着目すると、全て「期限切れ」となっており、⑥河辺・雄和地区が36.3%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち3.5%、地区別に見ると②東部地区が最も高く9.3%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	18.0%	3.5%	11.8%	66.7%
①中央地区	0.0%	29.9%	1.8%	15.0%	53.3%
②東部地区	0.0%	14.0%	9.3%	2.6%	74.1%
③西部地区	0.0%	7.4%	3.3%	8.9%	80.4%
④南部地区	0.0%	13.8%	1.6%	18.5%	66.1%
⑤北部地区	0.0%	7.0%	5.2%	6.6%	81.2%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	36.3%	0.0%	29.8%	33.9%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和元年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると57.7g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が30.1g/人・日、食べ残しが27.6g/人・日と推計された。

図表6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

